



□・BASF

We create chemistry

殺菌剤

シグナム[®] WDG

®=BASF社の登録商標

2つの有効成分で
幅広い病害をブロック!

作用性の異なる2つの成分を配合。

優れた効果と適用作物の広さで、生産者の皆様に貢献します。

適用変更

適用作物の変更 ●ブロッコリー → はなやさい類

※はなやさい類には「カリフラワー、茎ブロッコリー、ブロッコリー」の作物が含まれます。



カリフラワー



茎ブロッコリー



ブロッコリー

(2022年5月11日の拡大登録内容より抜粋)

キャベツ／菌核病

はくさい／白斑病

レタス／灰色かび病

アスパラガス／茎枯病

トマト／葉かび病

すいか／炭疽病

にんじん／黒葉枯病

たまねぎ／灰色腐敗病

にんにく／さび病

多様な作物に確実な効果

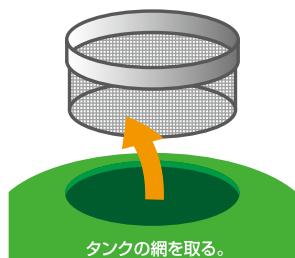
●作用性の異なる2つの有効成分で、広範囲の病害を抑えます。●優れた予防効果と残効性を発揮します。

■適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピラクロストロピンを含む農業の総使用回数	ボスカリドを含む農業の総使用回数
ねぎ	べと病、黒斑病、さび病	1500	100 ~ 300	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
キャベツ	菌核病、株腐病、黒斑病				2回以内		2回以内	
はくさい	べと病	1500~2000			3回以内		3回以内	
	菌核病、炭疽病	1500			2回以内		2回以内	
	白斑病、黒斑病	1500~2000						
レタス	灰色かび病、菌核病、すす枯病	1500			収穫14日前まで		2回以内	2回以内
非結球レタス	べと病	1500~2000						
はなやさい類	菌核病、黒すす病	1500		収穫7日前まで	2回以内	2回以内	2回以内	
	べと病	1500~2000						
パジル	べと病	2000		収穫3日前まで				
アスパラガス	茎枯病、斑点病、褐斑病	1500	100~500	収穫前日まで	3回以内	5分間苗根部浸漬 5分間セル苗浸漬	4回以内(定植前は1回以内、定植後は3回以内)	4回以内(定植前は1回以内、定植後は3回以内)
さやえんどう 実えんどう	灰色かび病、さび病	1500						
なす	うどんこ病	1500~2000	100 ~ 300	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内	3回以内
	灰色かび病、菌核病	1500						
	すすかび病	1500~2000						
トマト ミニトマト	葉かび病、灰色かび病	2000	100 ~ 300	収穫前日まで	2回以内	2回以内	2回以内	
ピーマン	うどんこ病、炭疽病、黒枯病							
とうがらし類	うどんこ病、炭疽病	2000	100 ~ 300	収穫前日まで	2回以内	2回以内	2回以内	
	黒枯病、灰色かび病							
すいか	炭疽病、うどんこ病	1500~2000	100 ~ 300	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
	つる枯病	1500						
かぼちゃ	菌核病、褐色腐敗病	1500	100 ~ 300	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
いちご	うどんこ病	1500~2000						
にんじん	うどんこ病、炭疽病	2000	100 ~ 300	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内	3回以内
	黒葉枯病、うどんこ病、斑点病	2000						
たまねぎ	黒葉枯病、うどんこ病、斑点病	2000	1	定植直前	1回	5分間苗根部浸漬 5分間セル苗浸漬	4回以内(定植前は1回以内、定植後は3回以内)	4回以内(定植前は1回以内、定植後は3回以内)
にんにく	灰色腐敗病	500	100 ~ 300	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
	灰色腐敗病、灰色かび病	1500						
未成熟とうもろこし	べと病、小菌核病	1500	100 ~ 300	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内	3回以内
	白色疫病	1500						
にんにく	さび病、白斑葉枯病	2000	100 ~ 300	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	2回以内
	黄斑病、葉枯病	2000						
たまねぎ	すす紋病	2000	2000	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	2回以内

シグナムWDGの溶かし方

タンクに水を張った後、タンクの網を取って、直接タンクにさらさらと振るように入れてください。



※シグナムWDGは水中での分散性が優れているので、タンクの中でただちに分散し均一に溶け込みます。

△効果・薬害等の注意

- 散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えてください。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤との輪播で使用してください。
- なすに使用する場合、浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると薬害が生じるおそれがあるので、さけてください。
- 蜜に対して影響があるので周辺の蜜にはかからないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除等関係機関の指導を受けてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けてください。

△安全使用上の注意

- 誤飲・誤食などのないよう注意してください。
- 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の担当を受けさせてください。
- 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の担当を受けさせてください。

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。
- 眼に入った場合には直ちに水洗い、眼科医の担当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。
- 付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに洗眼してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

△水産動植物への注意

- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。
- また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

△貯蔵上の注意

- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2022年5月の知見に基づいて作成されています。

BASFジャパン株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階

☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp/>

詳細はWEBでも
ご覧いただけます。



3200001 15
202205